

決済サービス会社 「ペイメントファースト」物語

宝生 真行 長谷部 忍

ブロードバンド、携帯電話の普及に伴い、ネットの利用はますます加速してきている。特に、一般の消費者が、ネットを商取引に利用するBtoC EC取引では、2004年末には取引額が5兆円を超える勢いで増加している。市場の立ち上がりには先駆け、沖電気は、1995年より、ネット商取引ソリューション「Infomerce[®]*1)」を投入した。このソリューションは、商品の在庫、注文管理から、決済までをトータルにサポートしていた。決済に関しては、さらに、決済機能をASPとして提供する決済サービス会社を設立した。この事業会社には、ネット決済のキープレイヤになるという想いを込め、決済でNo.1、「株式会社ペイメントファースト」という名前をつけた。

現在、ペイメントファーストは、ネットオークションサイト、家電量販店サイトなど、約500社のeビジネス事業者に、ネットでの銀行決済、クレジットカード決済をサービスとして提供している。

本稿では、まずペイメントファーストの提供する決済サービスについて示した後、決済サービスを実現するまでの我々の活動について振り返ってみる。

提供する決済サービス

ペイメントファーストは、銀行決済を中心に、クレジットカード決済などのネット決済サービスを提供している¹⁾。eビジネス事業者が、ペイメントファーストの決済サービスと呼び出すと、写真1のような画面が表示され、消費者が支払い銀行を選択、あるいは、クレジットカード番号を入力すると、最終的に消費者の支払能力（口座残高など）を確認し、その結果を事業者に通知し、処理が完了する。

ペイメントファーストが提供するサービスは、大きく、①インターデビットサービス、②MIA接続サービス、③e振決済[®]*1) サービス、④eクレ[™]*2) 決済サービスの4種類である。現在提供している主な決済サービスを表1に示す。

① インターデビットサービス

インターデビットサービスは、銀行決済サービスである。

*1) Infomerce, e振決済は、沖電気工業(株)の登録商標です。

*2) eクレは、沖電気工業(株)の商標です。

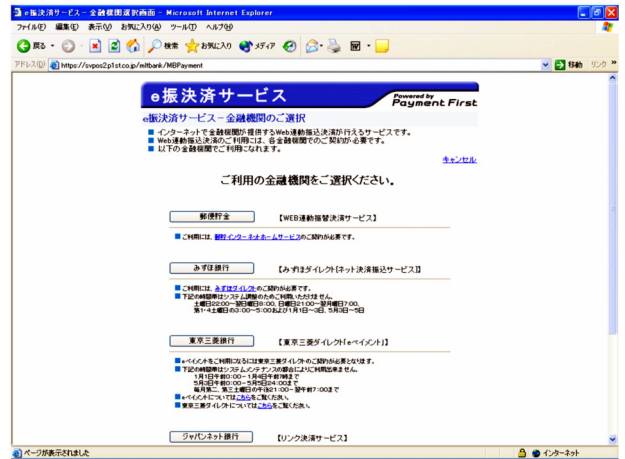


写真1 決済サービスの画面例 (e振決済サービス)

日本インターネット決済推進協議会の規定する仕様に基づき、ウォレットサービスと、POSサービスを提供している。

インターデビットは、以下の特徴を持ち、航空券の購入、銀行から証券口座への資金移動の決済など幅広くご利用いただいている。

- 商用サービスとしては最も安全性の高いプロトコルをベースに実現
- 銀行口座に連動した即時決済（消費者の口座から即時に資金を確保）

【ペイメントファースト出資会社】

沖電気工業株式会社、株式会社NTTデータ、NTTコミュニケーションズ株式会社、株式会社NTTドコモ、マイクロソフト株式会社、株式会社みずほコーポレート銀行、NTTリース株式会社、株式会社クレディセゾン、株式会社ジェーシービー、大日本印刷株式会社、株式会社ディーシーカード、日本信販株式会社、ユーシーカード株式会社（同一出資比率の場合五十音順）

表1 提供する主な決済サービス

サービス名		開始日	決済分類	利用
インターデビット	ウォレットサービス	2001.4.23	銀行	一般消費者
	同iモードサービス	2001.12.17		一般消費者
	POSサービス	2001.4.23		eビジネス事業者
	代表加盟店サービス	2002.7.29		eビジネス事業者
MIA接続サービス		2002.4.1	銀行	eビジネス事業者
e振決済サービス	接続サービス	2003.2.1	銀行	eビジネス事業者
	決済サービス	2003.7.1		eビジネス事業者
	メール請求サービス	2003.10.16		eビジネス事業者
eクレ決済サービス	接続サービス	2003.12.4	クレジット	eビジネス事業者
	メール請求サービス	2004.5.31		eビジネス事業者

② MIA接続サービス

MIA接続サービスは、銀行決済サービスである。みずほ銀行殿の提供するスーパーデビットサービスへの決済接続機能をeビジネス事業者に提供する。

MIA接続サービスは以下の特徴を持ち、主に銀行から証券口座への資金移動の決済などに、ご利用いただいている。

- 銀行口座に連動した即時決済
- 加盟店を起点とした後払いへの対応が可能
- インターネットだけでなく、電話（コールセンタ対応）など、他のチャネルからの利用も可能

③ e振決済^{®*1} サービス

e振決済サービスは、銀行決済サービスである。複数の銀行の提供するネットバンキングに連動した振込決済を、ワンストップで利用可能なサービスとして提供している。

e振決済サービスは、以下の特徴を持ち、一般のECショップでの支払い、インターネットオークションでの送金などで、ご利用いただいている。

- 銀行口座に連動した振込型決済
- 多くの銀行との接続実績（2004年5月現在、都市銀行など8金融機関との接続実績あり）
- 各銀行との個別契約が必要なく、ワンストップで複数の銀行決済が利用できる代表加盟型の決済サービスも提供

④ eクレ決済サービス

eクレ決済サービスは、クレジット決済サービスである。クレジットカード番号、有効期限などを入力する、いわゆるSSL決済はもとより、最新の3Dセキュア認証にも対応したサービスを提供中である。

eクレ決済サービスは以下の特徴を持ち、ネット犯罪抑止などに高い意識を持つ、家電量販店などにご利用いた

だいている。

- クレジットカードでの即時オーソリ
- SSL（128ビット）による通信安全性確保
- 3Dセキュア認証対応

決済サービスの実現

2000年6月のペイメントファースト設立以前より、沖電気は、インターネットシステム、ネット決済システム構築のノウハウ・経験は保持していた。しかし、24時間365日、安全に、安定してサービスを提供し続けることに関しては、ペイメントファーストが初めての事業会社だった。

(1) 安全性の確保—セキュリティの実現

決済サービスを提供する上で、重要となるのが、決済の安全性の確保である。ペイメントファーストにおいて、決済の安全性を確保するために、①セキュリティポリシーの策定、②ファシリティを含む高セキュリティなシステムの構築を行った。また、実現したサービスと呼び出すインタフェースに関しても、③ネット上での情報漏洩・改ざん防止など、最新の技術を盛り込んだ。

① セキュリティポリシーの策定

セキュリティポリシーの策定では、独自のリスク分析、安全性の確保策の立案を行う一方、クレジットカード会社、日本インターネット決済推進協議会が規定するセキュリティガイドラインに適合するようチェックを行い、つくり上げた。近年話題となっている、ネットでの取引における、個人情報漏洩、ハッカーやネットウィルスへの対策など、現在でも世界に通用するレベルのポリシーを、サービス開始当初から実現している。

内容は、システム構築、運用のガイドライン、社員の教育から監査のための規程まで多岐にわたり、改定も含

め、数冊のドキュメントになっている。ペイメントファーストは、これをバイブルとして、日々の運用を行っている。

② ファシリティ、システムの構築

決済サービスは、このセキュリティポリシーに従い構築した。セキュリティの特性上、その詳細を示すことはできないが、実現したシステムは以下の特徴を持つ。

- 建物、設備の物理的な安全性確保
 - ・建物への侵入
 - ・データセンタの安定運用
 - ・システムの直接操作
 - ・地震、火災などの災害対策、復旧
- ネットワークからのアクセスにおける安全性の確保
 - ・ネットワークからの進入抑止（外部犯罪）
 - ・内部犯罪の抑止
 - ・バックアップを含むデータの安全性確保

最近、ネットワークを経由したハッキングなどでなく、開発者を含めた内部犯罪による個人情報の漏洩が発生しているが、ペイメントファーストでは、バックアップされた情報を持ち出すような犯罪も抑止する仕組みを作りこんでいる。

③ 情報漏洩・改ざん防止

決済サービスを呼び出すためのインタフェースでは、それぞれのサービスで必要とされるセキュリティレベルに合わせ、電子証明書による相互認証を利用した高い安全性を持つインタフェースや、eビジネス事業者システムから簡単に、安全に呼び出すための、改ざん防止コード付リンク型インタフェースを提供している。

(2) 消費者向けサービスの実現

ペイメントファーストがサービスを提供する上で、次に苦労したのが、提供するサービスを利用するのが最終的には消費者であることである。消費者からの問い合わせに対応するために、金融機関、eビジネス事業者と連携するコールセンタの実現など、初めての経験が目白押しであった。

また最初のサービスは、銀行、決済ゲートウェイ事業者、認証局、複数のサービス利用eビジネス事業者、自前システム利用eビジネス事業者、および、ペイメントファーストというように、従来になく、多くのプレイヤーが協調してサービス開始の作業を行う必要がある、大規模なプロジェクトとなった。2001年4月23日の未明から各プレイヤーが緊張の中、複数の電話で連絡を取りながら、サービスをスタートした朝のことを、当時の関係者と今

でもなつかしく話をすることがある。

サービス開始後も、当初は、消費者のトラブル対応に追われた。特に、トラブルで、問い合わせをしてくる消費者のPC環境は、特殊なネット接続ソフトウェアを消費者自身も意識しないで導入しているなど、予想外の設定を行っている場合も多く「うまく使えない」「変なメッセージが出る」などの問い合わせに、消費者宅を訪問して調査することもあった。

これらの経験により、ノウハウもたまり、消費者への対応で以前ほど苦労することはなくなったが、今でも、新サービスを提供する開始日には、各サービス提供担当者に緊張がはしる。

新たな決済サービスの投入

ペイメントファーストは、2001年にサービスを提供して以来、消費者ニーズ、eビジネス事業者ニーズに対応したさまざまなサービスを提供してきた。

(1) 携帯決済サービスの提供

ペイメントファーストは、携帯電話からのモバイルコマースの普及を予見して、最初のサービス開始時から準備を進め、8ヵ月後の2001年12月から、銀行決済サービスとしては初めて、携帯電話向けの決済サービスを開始した（写真2）。

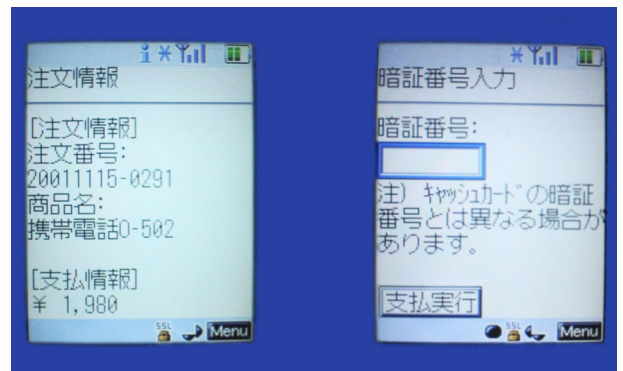


写真2 携帯決済サービス

今では、当たり前となっているが、制限の多い携帯電話から指示される決済トランザクションを、安全確実に処理するために、スクリーン・スクレイピング機能など、当時としてはチャレンジングな技術も採用した。

(2) 代表加盟型銀行決済サービス

ペイメントファーストは、複数の銀行と接続できるインターデビットサービス、e振サービスなど、銀行決済を中心にサービスを提供してきたが、eビジネス事業者から

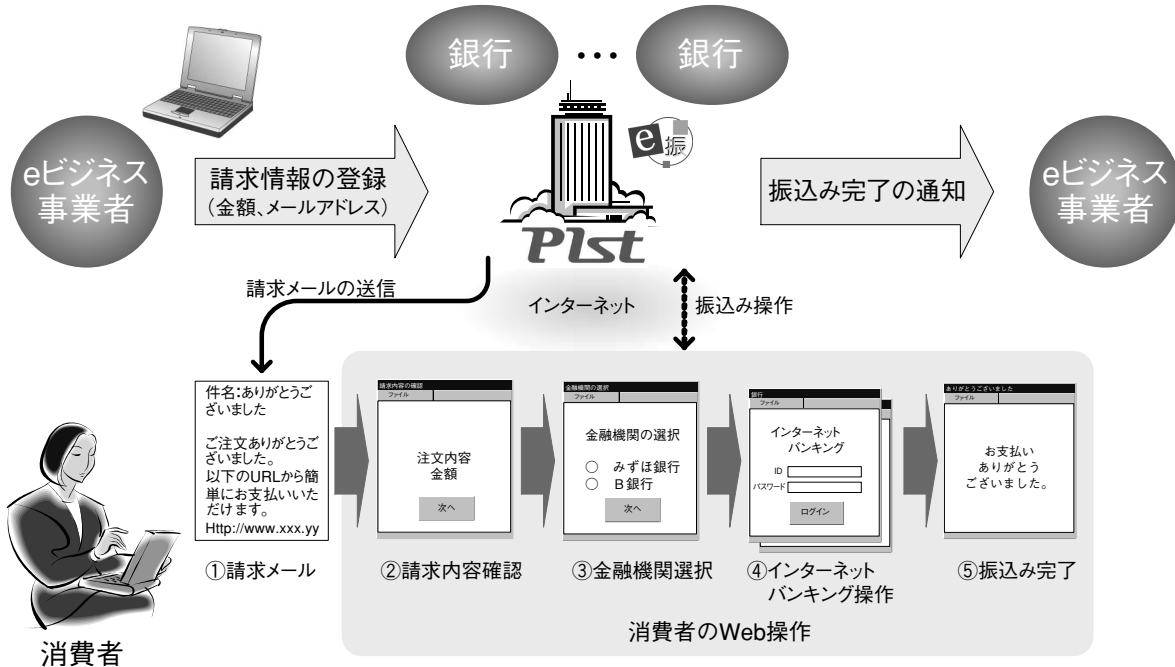


図1 メール請求サービス

は、利用する銀行ごとに決済契約を行う必要があり、各銀行との個別交渉をするための手間がかかりすぎるという課題が挙げられていた。

ペイメントファーストは、これに対応し、ペイメントファーストと契約すれば、複数の銀行決済をワンストップで利用できるサービスの提供を開始した。このサービスにより、年商1,000万円程度の中小事業者も、低コストで銀行決済を導入することができるようになった。

(3) メール請求サービス

ショッピングモール内のショップなど、ECシステムをアウトソーシングしている事業者に対し、2003年10月より、メール請求型サービスの提供を開始した。サービスの利用イメージを図1に示す。このサービスは、請求金額と消費者のメールアドレスを事業者のPCからHP経由でサーバに登録するだけで、自動的に、請求から決済、事業者への完了通知までの処理を行うため、システム開発をする必要がない。

このサービスは、銀行振り込みによりネット通販を行っている事業者で評価が高く、「非常に使いやすいサービスですね。感謝しています」などのお褒めのメールもいただいている。サービス提供者として、非常に嬉しい瞬間である。

今後の展開

ペイメントファーストは、携帯向けのサービスなど、これからも、新しい決済サービスを積極的に提供していく。最も新しく提供を開始した、eクレ決済におけるメール請求サービスは、犯罪の多いネットでのクレジット決済において、より安全性を高める3Dセキュア認証を中小の事業者まで普及させるサービスとして有望である。

おわりに

ペイメントファーストが、多くのeビジネス事業者に決済サービスを提供できるのは、出資会社殿を始め、さまざまな銀行殿、クレジット会社殿のご指導など、ご協力いただいた所が大きい。最後ではあるが、ここで御礼申し上げます。◆◆

参考文献

1) 長谷部：ネット決済サービス、沖テクニカルレビュー186号、Vol.68 No.2, pp.4-7, 2001年4月

筆者紹介

宝生真行：Masayuiki Hojo. 株式会社ペイメントファースト ジェネラルマネージャ
長谷部忍：Shinobu Hasebe. ネットビジネスソリューションカンパニー 部長